JCCGPress 号外第５号
Online ISSN 2433-2070
Japan Children's Cancer Group News Letter
小児がんの子どもたちを救おうと 全国から医療の専門家が結集しました

号外第５号
発行日 2019 年 ２月 １９日
NPO 法人日本小児がん研究グループ
JCCG 発行

JCCG 主催イベント 聖路加国際大学・毎日新聞社共催

「ボッチャで遊ぼう」
～小児がんの子どもたちとともに～

「国際小児がんデー」の２月 15 日、東京都中央区の聖路加国際病院で、パラリンピック競技「ボッチャ」で遊ぶイベント「『ボッチャで遊ぼう』～小児がんの子どもたちとともに～」が開催されました。子どもたちや聖路加国際大学看護学科の学生、医療者ら約 50 名が集まり、競技を楽しみました。

JCCG の小児がん専門医らが「パラリンピックには小児がんを経験した選手も多い。パラリンピアンを応援し、難しい病気と闘っている子どもたちや、子どもたちを支える兄弟や仲間にも元気を贈るイベントを開きたい」と企画。パラリンピック競技の中でも、幼い子も大人も、体にハンディキャップがある人も楽しめる「ボッチャ」に着目し、同大学と、オリンピックオフィシャルパートナーである毎日新聞の協力を得て実現しました。

同競技は、ジャックボールと呼ばれる白いボールに、赤・青それぞれ 6 球ずつのボールをどのくらい近づけられるかを競います。激しい動きはなく、緻密な戦略と技術を必要とします。投げ方は自由で、手が使えなければ蹴ってもよく、滑り台のような装置を使ってもよいそうです。

集まった子どもたちは、治療中やそうでない小学生、車いすで生活する高校生らさまざま。看護学科の学生がボランティアで運営をサポートし、医療スタッフがそばで子どもたちを見守りました。試合では一投ごとに歓声が上がり、会場は熱気に包まれていました。

東京 2020 オリンピックマスコットの「ミライトワ」（左）、同パラリンピックマスコット「ソメイティ」も応援に！

白い球が目標となる「ジャックボール」。ジャックボールに青い球と赤い球を近づける。

ボッチャを経験して

車いすの角度も大事

普段は同級生らとプレーをしているという高校生の仁井田利樹人さんは、「今日は小さい子や大人の思わぬ反応や盛り上がる声に自分も盛り上がった」と話し、「車いすの場合、腕の動きだけでなく車いすの向きを整えることも重要」とポイントを教えてくれました。

どの子も夢中に

ボランティア参加の同大看護学科学生の浅利光海さんは、「入院している子どもはまわりの子が元気なのに自分は学校に行けないつらさを感じると思う。その子の精神的ケアやご両親のケアも大事だと思っていた。ボッチャはどんな子も分け隔てなく夢中になれる様子がとてもよかった。そして、子どもたちが喜んでいる姿からこんなに元気をもらえるのだと知った」と目を輝かせていました。

奥深い競技

聖路加国際病院小児科の平林真介医師は、「意外と難しく、奥が深い競技。繊細な力加減でボールをコントロールすることはデジタルのゲームでは味わえない魅力で、子どもたちにとっても大切な経験となる。私も楽しい」と笑顔で語りました。

平林医師

子どもたちの輝く笑顔

同大糸魚川順理事長は、「昔遊んだビー玉が思い出され、フランスのペタンクも思い起こす。子どもたちの輝く笑顔は素晴らしい。また開催できれば」と次回への抱負も話していました。

糸魚川聖路加国際大学理事長

水谷修紀 JCCG 理事長の挨拶

真部淳同副理事長の司会

練習も元気いっぱいに

いよいよ本番、集中して…

大事な一投、周りも息を飲む

大人も夢中に

勝者は赤？　青？

判定はミリ単位になることも

後片付けもみんなで

皆様のご協力
どうもありがとう
ございました♪